

漢字の読み書き

漢字の読み
漢字の書き
難読語の読み

4 14 24

四字熟語

四字熟語の書き
四字熟語の意味
四字熟語の誤字訂正
二字と二字をつなげて完成
文にあてはまる四字熟語

30 36 44 48 52

慣用句

読み書きと意味
脱語挿入
文にあてはまる慣用句

56 62 66

ことわざ

読み書きと意味
ことわざの意味
文にあてはまることわざ
語句と語句をつなげて完成

72 78 82 86

故事成語

読み書きと意味の選択
脱語挿入
文にあてはまる故事成語

88 90 92

同音異義語・同訓異義語

同音異義語の書き
同音異義語の選択
同訓異義語の書き
同訓異義語の選択

94 102 104 112

対義語・類義語

共通の字をもつ対義語
二字とも異なる対義語
共通の字をもつ類義語
二字とも異なる類義語

114 116 118 120

語句の意味

語句の意味選択
文中にあてはまる語句

122 130

カタカナ語

カタカナ語の意味
脱語挿入

正しい語の選択

134 138 142

敬語

敬語について
敬語の種類

144 145

表現

敬語への書き換え
敬語の使い方
文中での正しい使い方
誤りやすいことば

146 148 154 158

古文

歴史的仮名遣い
古語の意味

166 170

詩歌

覚えておきたい短歌・俳句

174

文学史

日本の文学作品
海外の文学作品

176 182

索引

184

1

次の太字の読み方を記せ。

- ① 過 **ち**を犯す。
 ② 硫 **黄** と水素の化合物。
 ③ 幾 **重** にも山が連なる。
 ④ 畏 **敬** の念を抱く。
 ⑤ 研究を民間に委 **嘱** する。
 ⑥ 草花を慈 **しむ**。
 ⑦ 春の息 **吹** を感じる。

■解答 解説

- ① あやま **意味** 物事のし損ない。故意でなく、してしまった失敗。**注** 動詞は「過(あやま)つ」。
 ② いおう **意味** 黄色くもろい鉱物で、燃やすと青いほのおを出す。
 ③ いくえ **意味** 「幾重にも」で「何重にも重なって」「何回も繰り返す」の意。
 ④ いけい **意味** 心からおそれ敬うこと。
 ⑤ いしよく **意味** 仕事や役目を、人に頼んで任せること。
注 似た意味の「委託(いたく)」と読みを混同しない。
 ⑥ いつく **意味** 深い愛情をもって、大切にすること。
 ⑦ いぶぎ **意味** 活動する気配。

- ⑧ 遺 **漏** のないように記入する。
 ⑨ 証 **拠**を隠 **蔽** する。
 ⑩ 会 **釈** してすれ違う。
 ⑪ 警官が現場に赴 **く**。
 ⑫ 皆 **目** 見当がつかない。
 ⑬ 双方の意見が合 **致** する。
 ⑭ 葛 **藤** が生じる。
 ⑮ 音楽を心の糧 **とする**。

- ⑧ いろいろ **意味** 必要な事が抜け落ちていること。
 ⑨ いんべい **意味** 目につかぬように、覆い隠すこと。
 ⑩ えしやく **意味** 軽く頭を下げて、挨拶すること。**注** 「会」を「え」と読む熟語として「会得(えとく)」も覚えしておく。
 ⑪ おもむ **意味** ある所へ向かって行く。
 ⑫ かいもく **意味** 下に打消しの語を伴って、「ほんの少しも」の意。
 ⑬ がつち **意味** ぴったりと合うこと。
 ⑭ かつとつ **意味** 相反する感情や欲求で、思い悩む状態。
 ⑮ かけて **意味** 精神を支え、活動の源となるもの。

1

太字の平かなを漢字に改めよ。

① あくせんくとう

② いきどつごう

③ いしんでんしん

④ いちごんはんく

⑤ いちぼうせんり

⑥ いっしんふらん

⑦ つみせんやません

⑧ かいとうらんま

⑨ がでんいんすい

⑩ ききいっばつ

⑪ ぎしんあんき

⑫ くうぜんぜつご

⑬ ごえつどうしゅう

⑭ ごりむちゅう

⑮ ごんごどつだん

■ 解答 解説

① 悪戦苦闘

意味 苦しい戦いをする。苦しみつつ努力すること。類 四苦八苦。

② 意気投合

意味 互いの気持ちや思いがぴったりと合うこと。投には「あう」という意味がある。

③ 以心伝心

意味 言葉によらなくても、互いの気持ちが通じ合うこと。

④ 一言半句

意味 ほんのわずかな短い言葉。類 一言一句・片言隻句。

⑤ 一望千里

意味 視界が遠くまで開けているさま。

⑥ 一心不乱

意味 一つのこと集中すること。

⑦ 海千山千

意味 さまざまな経験をして世の中に通じ、ずるがしこいこと。類 千軍万馬。

⑧ 快刀乱麻

意味 もつれた物事を見事に解決すること。

⑨ 我田引水

意味 自分が都合がいいように物事をとらえたり実行したりすること。類 自画自讃(賛)。

⑩ 危機一髪

意味 危険が迫っていること。類 間一髪。

⑪ 疑心暗鬼

意味 心に疑いを持って見ると、何でもないことも怪しく感じられるということ。

⑫ 空前絶後

意味 前例がなく、将来もありえない珍しいこと。

⑬ 呉越同舟

意味 利害の対立する者同士が、偶然、同じ場所、同じ境遇に在ること。

⑭ 五里霧中

意味 物事の様子や事情がつかめずどうしてよいかわからないこと。類 暗中摸(模)索。

⑮ 言語道断

意味 もつてのほかであること。

1 太字の漢字は平がなに、平がなは漢字に改め、それぞれの慣用句の意味をアイ……から選べ。

A ① あいつち を打つ

② 灰汁 が抜ける

③ 顎 を出す

④ あせみず を流す

⑤ 一矢 を むく いる

ア 敵の攻撃に対して反撃をする。
 イ あくどさがなくなり、洗練される。
 ウ 一所懸命に働く。
 エ 話に合わせてうなずいたりすること。
 オ ひどくつかれる。へこたれる。

■ 解答 解説

A ① 相槌(鎚)・エ

意味 刀などをつくる時、交互に槌を入れることから。
 例 相手の発言に対して、ひとつひとつ相槌を打つ。

② あく・イ

意味 灰汁は灰に水を入れてできる上澄み汁。
 例 歳を取ったら灰汁が抜けてつきあいやすくなった。

③ あご・オ

意味 顎の音は「ガク」、訓は「顎」。
 例 最後まで顎を出さずに頑張ろう。

④ 汗水・ウ

意味 苦勞をいとわずに、仕事に打ち込む様子。
 例 汗水を流して得た金をこつこつと貯めて家を買う。

⑤ いっし、報・ア

注 一矢を「いちや」と読まぬこと。
 例 最終回でようやく得点し、なんとか一矢報いることができた。

B ① いひょう に出る

② うご の 筍

③ 現 を 抜かす

④ えつ に 入る

⑤ おかぶ を うばう

⑥ おはち が 回る

ア 同じようなものが相次いで現れること。
 イ 他人の得意とするものを、別の人がする。
 ウ 思いもつかないことをする。
 エ 工心の中で大いによろこぶ。
 オ 心をうばわれて夢中になる。
 カ 順番が回ってくる。

B ① 意表・ウ

注 「意表を突く」とも言う。
 例 相手の意表に出る作戦が成功した。

② 雨後、たげのこ・ア

意味 雨の降った後、筍がつきつきに出ることから。
 例 同じような作品が雨後の筍のように出てくる。

③ うつつ・オ

意味 夢中になり、正気を失っているさま。「現」は目がさめている状態。
 例 趣味に現を抜かしてばかりでは困る。

④ 悦、い・エ

意味 「悦」の訓は「悦ぶ」。
 例 自分のアイデアが認められて、一人悦に入る。

⑤ 株、奪・イ

意味 「お株」は得意な芸。
 例 エースのお株を奪う新人の活躍で勝利した。

⑥ 鉢・カ

意味 「お鉢」の鉢はご飯を入れる「めしびつ」のこと。

1

太字の漢字は平がなに、平がなは漢字に改め、それぞれのことわざの意味をアイ……から選べ。

A ①あくせん 身に付かず

②朝起きは さんもん の徳

③ 虻 はち 取らず

④あまだ れ 石を 穿 つ

⑤いそ がば回れ

アあれもこれもと欲張ると両方取り損なう。
イ不正に得た金は手元に残らないものだ。
ウ早起きをするとか徳がある。
エ非力でも根気よく続ければ成功する。
オ時間をかけても安全な手段のほうがよい。

■解答 解説

A ①悪銭・イ

【意味】「悪銭」は不正な手段で得たり、働かずで得た金のこと。【注】「あぶく銭」はつまらないことに使ってしまう残らないということ。

②三文・ウ

【意味】「文」は昔の貨幣単位。一文銭十枚で一銭になる。【注】「徳」は「得」とも書く。【類】早起きは三文の徳。

③あぶ、蜂・ア

【意味】虻は、はえに似た昆虫。血を吸う種もある。【類】二兎を追うものは一兎をも得ず。【反】一石二鳥。

④雨垂、うが・エ

【意味】「穿つ」は「穴を開けること」の意味。【類】塵も積もれば山となる。

⑤急・オ

【注】「急がば」は「もし急ぐならば」という意味。【類】急いで仕事を仕損じる。

B ①うそ からでた 実

②同じ あな の 貉

③かえる の子はかえる

④かつば の川流れ

⑤勝てば かんぐん

⑥きゆう すれば通ず

ア追いつめられるとかえって活路が開ける。
イ勝った者のやったことが正しいとされる。
ウうそで言ったのに本当になってしまふこと。
エ同じ目的で結ばれている仲間。
オ凡人の子は凡人にしかなれないものだ。
カどんな名人でも時には失敗する。

B ①嘘、まこと・ウ

【意味】「実」はうそいつわりでないことの意味。

【注】「実」を「誠」と書かないように。

②穴、むじな・エ

【意味】悪いことをする仲間について使うことが多い。「貉」はあなぐまのこと。【類】同じ穴の狐・一つ穴の狐。

③蛙・オ

【類】瓜の蔓に茄子は生らぬ。

④河童・カ

【意味】「河童」は水の中に住む想像上の動物。泳ぎが巧い人のたとえにも用いる。【類】弘法にも筆の誤り・猿も木から落ちる。

⑤官軍・イ

【意味】このことわざのあとに、「負ければ賊軍」と続けることもある。「官軍」は朝廷に付き従う正義の軍のこと。

⑥窮・ア

【意味】「窮す」は危機的な状況。窮地。「通ず」は、活路が開けるという意味。

1

大字の漢字は平がなにな、平がなは漢字に改め、それぞれの故事成語の意味をアイ……から選べ。

A ①悪事 せんり を行く

②間 はつ を容れず

③きゆうぎゆう の一毛

④座右の めい

⑤しゅんじゆう に富む

アすかさず。すぐさま。

イ悪い行いや評判はすぐに知れ渡るものだ。

ウ多くの中のほんのわずかなもの。

エ年齢が若くて将来が長いこと。

オ手元に置いて自分の戒めとする言葉。

【解答】解説

A ①千里・イ

【注】「悪事千里を走る」「悪事千里」とも。

②髪・ア

【注】「間髪」は一語ではないので「かん、はつ」と区切って読む。また「かんぱつ」と読まないこと。「髪」を「ぱつ」と読む言葉には間一髪・危機一髪などがある。

③九牛・ウ

【意味】たくさんさんの牛の毛の中のほんの一本の毛から取るに足らないもの。つまり少ないものであること。

④さゆう、銘・オ

【意味】「座右」は自分が座っているすぐ右側のこと。常に自分の近くにあるという意味。「銘」は戒めを記したものだ。

⑤春秋・エ

【意味】若くて将来有望な人物に対して使う。「春秋」は年月・年齢の意味。『史記』に「皇帝は春秋に富み、未だ天下を治むるにあたわず」とある。

B ①すいぎよ の交わり

②せいてん の 霹靂

③だんちよう の 思い

④とうか 親しむべし

⑤はいすい の じん

⑥はくがん 視する

ア読書にふさわしい季節である。

イ切っても切れないような親密な仲。

ウ嫌なものを見る冷やかかな目つき。

エあとに引けない覚悟でことにあたる。

オはらわたがちぎれるほどの悲しみ。

力思いがけない大事件。

B ①水魚・イ

【意味】水と魚が切り離せないのと同じように切り離せない関係。【類】刻頸の交わり。

②青天、へきれき・カ

【意味】「霹靂」は雷のこと。青く晴れた空に突然雷がとどろくことから。

③断腸・オ

【意味】子を奪われた親猿が死んだ後、腹を割いてみたらはらわたがちぎれていたという故事から。

④灯火・ア

【意味】風が涼しく夜も長くなる秋は読書に最適であるということ。

⑤背水、陣・エ

【意味】「背水」は川や湖などを背にすること。【例】次の企画会議には背水の陣で臨む。

⑥白眼・ウ

【意味】竹林の七賢の一人である阮籍は気に入らない相手に「白眼をもってこれに對した」という。憎み軽蔑する意味でも使う。

1

太字の平がなを漢字に改めよ。

- ① 私のあいしように歌を紹介する。
- ② 友人をあいしように呼ぶ。
- ③ 藤村とうむらの詩をあいしようにする。
- ④ いがいに簡単な試験だった。
- ⑤ 社員しゆいんがいはい入室できない。
- ⑥ 参加するいぎが分からない。
- ⑦ 提案にいぎのある者はいない。
- ⑧ 同音いぎ語を学習する。
- ⑨ いさいは、後日手紙で知らせる。
- ⑩ 彼はいさいを放つ研究者だ。

[] [] [] [] [] [] [] [] [] []

■ 解答 解説

- ① 愛唱 ② 愛称 ③ 愛誦
- 意味「愛唱」は歌について、「愛誦」は詩や文章の朗読について用いる。「愛称」は親しみを込めて呼ぶ名前。
- ④ 意外 ⑤ 以外
- 意味「意外」は思いの外。「以外」はそのほかのこと。
- ⑥ 意義 ⑦ 異議 ⑧ 異義
- 意味「意義」はふさわしい価値、言葉の示す内容。「異議」は他人と異なる意見や考え方。「異義」は他と意味が違うこと。
- ⑨ 委細 ⑩ 異彩
- 意味「委細」は詳しい事情のこと、全て。「委細承知した」という使い方を覚えておくとよい。「異彩」は他と違った趣。

- ⑪ 新製品の美しいいしように。
- ⑫ いしように身をまとう。
- ⑬ 手がいじように発達した動物。
- ⑭ 体のどこにもいじようはない。
- ⑮ 彼のいつかんした主張。
- ⑯ 公共事業のいつかんとして行う。
- ⑰ 人事いどうで課長になった。
- ⑱ 園内を車でいどうする。
- ⑲ 今回の作品はかいしんの出来だ。
- ⑳ 自分へのかいしんの言葉である。
- ㉑ 古い制度をかいしんすべきだ。

[] [] [] [] [] [] [] [] [] [] [] []

- ⑪ 意匠 ⑫ 衣装
- 意味「意匠」は外観を美しくするためのデザイン。
- ⑬ 異常 ⑭ 異状
- 意味「異常」は「正常」と対をなす言葉。「異状」は普段と異なっている様子を指す。
- ⑮ 一貫 ⑯ 一環
- 意味「一貫」は方針や考え方を最初から最後まで変えないこと。「一環」は関係を持つものの一つ。
- ⑰ 異動 ⑱ 移動
- 意味「異動」は職場の中で部署が変わること。「移動」は移り動くこと。
- ⑲ 会心 ⑳ 戒心 ㉑ 改新
- 意味「会心」は自分の意のままに満足なこと。「戒心」は用心すること。「改新」は新しくすること。

②②	②①	②①	①⑨	①⑧	①⑦	①⑥	①⑤	①④	①③	①②	①①
党	勢	唯	愛	作	食	道	盤	述	財	然	遇
↕	↕	↕	↕	↕	↕	↕	↕	↕	↕	↕	↕
野党	劣勢	唯心	偏愛	寡作	美食	邪道	終盤	略述	蓄財	整然	冷遇
〔	〔	〔	〔	〔	〔	〔	〔	〔	〔	〔	〔
〕	〕	〕	〕	〕	〕	〕	〕	〕	〕	〕	〕

- ①① 厚 (または優)
- ①② 雜
- ①③ 散
- ①④ 詳
- ①⑤ 序
- ①⑥ 正
- ①⑦ 粗
- ①⑧ 多
- ①⑨ 寡 「寡」は少ないという意味で、「寡作」は作品を少ししか作らないこと。
- ①⑧ 博
- ①⑨ 博 「意味」「偏愛」は特定の物にかたよった愛。「博愛」は平等に愛すること。
- ②① 物
- ②① 唯心 「意味」「唯心」は真に実在するのは心だけだということ。考え方。「唯物」は真に存在するのは物質だけだということ。考え方。
- ②① 優
- ②② 与

①⑩	①⑨	①⑧	①⑦	①⑥	①⑤	①④	①③	①②	①①
義	海	在	性	報	線	論	分	文	憲
↕	↕	↕	↕	↕	↕	↕	↕	↕	↕
狭義	領海	潜在	慢性	凶報	支線	総論	過分	散文	合憲
〔	〔	〔	〔	〔	〔	〔	〔	〔	〔
〕	〕	〕	〕	〕	〕	〕	〕	〕	〕

- ① 解答 解説
- ① 違
- ② 韻 「意味」「散文」は音数に決まりがない文。「韻文」は音数に決まりがある文で、詩歌全般を指すこともある。
- ③ 応 「意味」「過分」は不相応なよい扱いのこと。
- ④ 各 「意味」「総論」は全体をとらえての論、「各論」は部分をとらえての論。
- ⑤ 幹 (または本)
- ⑥ 吉
- ⑦ 急
- ⑧ 頭 「意味」「潜在」は隠れて存在すること。「顕在」は見つめられる状態であること。
- ⑨ 公
- ⑩ 広

1 二つの熟語が対義語になるよう、□にあてはまる漢字を記せ。

1 次の語句の意味を選び、アイ……の記号を記せ。

- ① 案の定
ア ずつと前から イ 思った通り
ウ 思いがけなく エ 幸運にも
- ② 遺憾
ア 情けない気持ち イ 感謝する気持ち
ウ 残念な気持ち エ 申し訳ない気持ち
- ③ 意匠
ア 本質 イ 組み立て
ウ 工夫 エ 偉大な芸術家
- ④ 異存
ア 反対意見 イ 変わった考え
ウ 個人的な人 エ 人に頼ること
- ⑤ 逸話
ア 詳しい話 イ 知れ渡っている話
ウ 役に立つ話 エ 知られていない話

■解答 解説

- ① イ 誦 あん(の)じょう
意味「案」は「考え」、「定」は「その通り」の意。
例 案の定、失敗した。
- ② ウ 誦 いかん
例 遺憾の意を表する。実力を遺憾なく発揮する。
- ③ ウ 誦 いしよう
意味「意匠を凝らす」で「いろいろと工夫する」の意。「斬新な意匠の建築物」とも使い、この場合はデザインの意を表す。
- ④ ア 誦 いぞん
例 その決定に異存はない。注「いぞん」とは読まない。
- ⑤ エ 誦 いつわ
例 英雄の逸話を紹介する。
注 外来語でいうとエピソード。

- ⑥ いみじくも
ア たまたま イ すみずみまで
ウ 実に巧みに エ 本意ではないが
- ⑦ 裏腹
ア 姿形がそっくりである
イ 行動や容姿が正反対である
ウ 関連している エ あおむけである
- ⑧ 面映ゆい
ア 照れくさい イ かわいらしい
ウ じれったい エ 自慢げである
- ⑨ 渴望する
ア 熱中する イ のどが渇く
ウ 強く望む エ 望みがなくなる
- ⑩ 緩慢
ア 動作がすばやい イ 規則的である
ウ 気ままである エ ゆっくりしている

- ⑥ ウ
意味 表現がびたりと合っていることを表す。例「孤高」とは、いみじくもその詩人のあり方を言いつ得た。
- ⑦ イ
例 本心とは裏腹なことを言う。類 あべこべ・逆。
- ⑧ ア 誦 おもは(ゆい)
意味 きまりが悪いことを表す。例 みんなの前で先生に褒められて面映ゆい。
- ⑨ ウ 誦 かつほう(する)
意味 のどが渇いて水を欲しがるように、強く望むこと。例 民主化を渴望する。類 切望・熱望。
- ⑩ エ 誦 かんまん
意味 「緩」も「慢」も「進み方が遅い」という意味をもつ。例 動作が緩慢だ。

1 次のカタカナ語の意味をアイ……の中から選べ。

A ① アイデンティティ

② アクション

③ アトラクション

④ イデオロギー

⑤ エゴイズム

⑥ オーソリティー

⑦ カリスマ

[] [] [] [] [] [] [] [] [] []

ア 権威 イ 利己主義

ウ 行動 エ 自己同一性

オ 余興・遊戯設備

力 超越した能力をもつ存在

キ 政治的、社会的な思想

- 【解答 解説】
- A ① **イ**
意味 主体性、自分らしさとも訳される。
- ② **ウ**
意味 演技、派手な立ち回りという意味もある。
例 アクション映画。
- ③ **オ**
意味 遊園地の遊戯設備という意味でよく使われている。
- ④ **キ**
意味 比喩的に、空理空論という意味で使われることもある。
- ⑤ **イ**
意味 自分本位な考え方。「エゴ」は自我。
- ⑥ **ア**
意味 ある分野についての実力者、第一人者。
- ⑦ **力**
意味 多くの人をひきつける優れた資質や、それをもつ人。**例** 美容界のカリスマ。

B ① キャラクター

② クラシック

③ グローバル

④ グロテスク

⑤ コンプレックス

⑥ ジェンダー

⑦ システム

⑧ シミュレーション

[] [] [] [] [] [] [] [] [] []

ア 組織 イ 模擬実験

ウ 古典的 エ 地球規模の

オ 劣等感 カ 男女の差異

キ 異様な ク 個性・登場人物

カタカナ語の意味①

B ① ク

② ウ **意味** 性格や個性、小説や漫画の登場人物。

③ エ **意味** 古典的で格式が高いことを表す。

④ キ **意味** 「世界的な」「地球全体の」を表す。**例** グローバルな視野。

⑤ オ **意味** 奇怪で、気味の悪い感じを表す。「グロ」と略して使うこともある。

⑥ カ **意味** 「抑圧された感情」を表す用語。

⑦ ア **意味** 社会的、文化的に形成される男女の違い。生物学的な性差と区別される。

⑧ イ **意味** 組織の他に、制度・方法・体系・仕組みなどの意味でも使われる。

例 飛行機の操縦をシミュレーションする。

敬語について

敬語とは、人への敬意や、改まった気持ちを表す言い方で、「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」の三つに大別される。

尊敬語 敬意の対象者の動作やものを高める。

① お(ご)になる「お(ご)なされる」

例 休む↓お休みになる・お休みなされる

乗車する↓ご乗車になる・ご乗車なされる

② される(られる)

例 休む↓休まれる

花を活ける↓花を活けられる

③ 専用の尊敬動詞を使う↓**対照表**

④ 尊称を付ける

例 ご自宅 お手紙 ○○様

謙譲語 自分の動作やものを謙遜して言う。

① お(ご)する「お(ご)いたす(申す)」

例 待つ↓お待ちする・お待ちいたす・お待ち申す

す/連絡する↓ご連絡する・ご連絡いたす

ご連絡申す

② 専用の謙譲動詞を使う↓**対照表**
③ 単称を付ける 例 拙宅 愚息 弊社

尊敬動詞・謙譲動詞の例の対照表

普通表現	尊敬動詞	謙譲動詞
言う	おっしゃる	申す
する	なされる	申し上げる
食べる	召し上がる	いただく
飲む		
来る・行く	おいでになる いらっしゃる	参る 伺う

丁寧語 改まった言葉遣いをするもの。

「です・ます」

例 朝だ↓朝です いる↓います

「ございます」

例 空席がある↓空席がございます

体言に「お(ご)」を付ける(美化語)

例 お茶を飲む 飯を炊く

1

傍線の敬語の種類を尊敬語・謙譲語・丁寧語から選び「」に記せ。

① 先生にご都合をうかがう。

② 先生が作品をごらんになる。

③ その方とは初めてお目にかかる。

④ 私も明日、母と行きます。

⑤ お客様を応接室へご案内する。

⑥ 先生が「いいよ。」とおっしゃる。

⑦ 吹奏楽部の先生が指揮をなさる。

■解答 解説

① 謙譲語

意味 「うかがう」は「訪ねる・聞く」の意味があり、ここでは「聞く」の意味。

② 尊敬語

意味 「ごらんになる」は「見る」の尊敬表現。ここでは先生に対する敬意。

③ 謙譲語

意味 「お目にかかる」は「会う」の謙譲表現。

注 「お会いする」と同じ意味。

④ 丁寧語

意味 「〜ます」は丁寧語。

⑤ 謙譲語

意味 「案内する」の謙譲語。案内するのは自分なので、謙譲語だと判断できる。

⑥ 尊敬語

意味 「おっしゃる」は「言う」の尊敬表現。

⑦ 尊敬語

意味 「なさる」は「する」の尊敬表現。